



雲青き

さいたま市立大成中学校 学校だより

令和6年7月1日

## 「陰の支え」

校長 福田博志

まず、皆さんにお礼を述べたいと思います。朝、いつも、登校してくるときに正門の所で、さわやかなあいさつをしてくれてありがとうございます。とても気持ちのよい朝を迎え、1日のよいスタートを切ることができます。また、校内で顔を合わせた時にも皆さんから明るいあいさつをもらって、元気がみなぎってきます。ありがとうございます。



さて、私が感銘を受けた一編の詩を紹介します。

「こまった時に思い出され 用がすめば すぐ忘れられる そうきん 台所のすみに小さくなり むくいを知らず 朝も夜もよろこんで仕える そうきんになりたい」

この詩は、国立ハンセン病療養所などで慰問をされていた岡山県玉島教会の牧師であった河野進さんの詩です。

私は、自分自身に余裕がなく、少マイライラしている時や不平不満の時に、この短い詩を読むと、それまでイラついていた心が落ち着き、新たな新鮮な気持ちにリセットされたような気持ちになるのです。

身をもって汚れをふき取り、きれいにするかわりに、自らが汚れていく「そうきん」。新しいきれいな「そうきん」は、汚れることが宿命です。「そうきん」がなかったらその場所は、汚れたままで、さらに汚くなってしまおうでしょう。

私たちは、何かよいことをしたらほめてもらいたい、認めてほしいと思うものです。しかし、そういうものが無くても、社会の役に立ちたいと思う心は、とても崇高な心だと思います。代償やお礼を求めることはせず、率先して正しい行いをしようとする心。例えば、近くに倒れそうな具合の悪い人がいたら、助けてあげる。そこに代償やお礼を求める心はないでしょう。

そういう心境になれる人は、きっと、失敗して挫折しても立ち上がってきた人でしょう。

他人の少々の過ちを「大丈夫だよ」と許してきた人でしょう。

自分がうれしいことを他人にも行うことができる人でしょう。

私たちは毎日、特に困ることもなく生活を送っていますが、必ず誰かが私たちを支えてくれていることを忘れないことが大切です。誰かが「そうきん」になってくれているのです。そういう陰の支えになってくれている人に対する感謝の気持ちを持ち続けていきたいものです。